

令和7年度地域振興基金を活用した区民活動助成制度の審査結果について

1. 目的

品川区地域振興基金を活用し、区内で公益活動に取り組んでいる区民活動団体を対象に、地域の課題や社会的課題の解決に向けた事業に資金助成を行い、多様な公益活動の活性化を目指すとともに、活動団体の育成を図る。

2. 事業概要

区内で公益活動に取り組んでいる区民活動団体が実施する事業に対し、資金助成を行う。

3. 申請

(1) スケジュール

説明会	令和7年4月10日（木）
事前相談	令和7年4月16日（水）～4月28日（月）
申請書類提出	事前相談終了後～4月30日（水）
第1次審査会（書類審査）	令和7年5月23日（金）
第2次審査会（面接審査）	令和7年6月23日（月）
※トライ助成（継続申請）については、令和7年2月に申請書類の受付をし、3月に書面審査を行った。	

(2) 助成金の種類

- ① チャレンジ助成（品川区内において活動の継続・発展を支援する）
- ② スタートアップ助成（品川区内において活動の立ち上げを支援する）
- ③ トライ助成（区が提示するテーマおよび要件を満たす事業による区政への参画促進）

(3) 助成期間

【チャレンジ助成・スタートアップ助成】…4月1日から翌年2月28日まで

【トライ助成】…9月1日から翌年3月31日まで

※トライ助成（継続申請）については、4月1日から翌年3月31日まで

(4) 申請できる団体

- ① 品川区内において公益活動を目的として活動している団体（NPO法人、ボランティア団体等）であること。
- ② スタートアップ助成については、団体設立からおおむね5年以内であること。
- ③ 区民活動情報サイト（しながわすまいるネット）に登録している団体であること。
- ④ 品川区に主たる事務所または活動拠点を有すること。
- ⑤ 5人以上で構成されていること。
- ⑥ 団体の運営に関する規則（定款、規約、会則等）が定められており、なおかつ、会計処理が適正に行われており、内容を提示できること。
- ⑦ 団体構成員相互の利益を図ることを目的とする団体（趣味サークル等）ではないこと。

(5) 対象となる事業

【チャレンジ助成・スタートアップ助成】

- ① 品川区の地域課題や社会的課題解決のために取り組んでいる事業であること。
- ② 品川区の地域づくりを目的とした事業であること。
- ③ 品川区民の福祉等の向上に寄与する事業であること。
- ④ 同一事業について、他の制度による助成を受けていないこと。
- ⑤ 同一事業について、令和3年度以前に本制度による助成を受けていないこと。

【トライ助成】

- ① 地域課題や社会的課題解決のために取り組む事業で、区が提示するテーマに取り組んでいる事業であること。
- ② 同一事業について、他の制度による助成を受けていないこと。

[令和7年度募集テーマ]

困難や生きづらさを抱える人たちを地域で支えるコミュニティづくり

⇒多様で複雑な困難・生きづらさを抱える人に対して、世代や属性を超えて交流できる場や人とのつながりを通して、地域の住民同士で支え合う仕組みづくりに取り組む事業

4. 審査方法

「地域振興基金活用推進会議」（審査会）による書類審査、面接審査を経て決定。

- (1) 審査委員：7名（学識経験委員1名、有識者委員2名、公募委員2名、区職員2名）
- (2) 審査基準：申請事業の内容、金額について次の基準で審査を行う。

- ① 事業の目的が明確であるか、具体的に示されているか
- ② 地域ニーズや地域課題、社会的課題を具体的に把握し示されているか
- ③ 多くの区民にとって有益な、公益性のある事業目的となっているか
- ④ 事業の内容が具体的で、目的と整合したものになっているか
- ⑤ 実施体制や責任体制が明確であり、実施内容と組織体制が整合しており、継続的な事業実施が期待できるか
- ⑥ スケジュールが具体的で、実施可能な計画になっているか
- ⑦ 事業目的に合致し、成果が具体的に（数値、指標、状態など）示されているか
- ⑧ 事業を遂行することにより、団体の自立・成長・能力向上が期待できるか
- ⑨ 実現可能性の高い予算で収支のバランスがとれ費用の使途は事業目的に対し妥当か
- ⑩ 積算根拠が具体的かつ妥当に記載されているか

5. 助成金額について

(1) 助成の種類

助成金の種類	助成金額
チャレンジ助成	助成対象額の3分の2以内で上限50万円
スタートアップ助成	助成対象額の4分の3以内で上限30万円
トライ助成	助成対象額の10分の10以内で上限250万円

- (2) 対象経費 謝礼、消耗品費、印刷費、使用料、人件費等

6. 予算 10,500千円

7. 審査結果

選定事業：6事業（申請：6事業）

…チャレンジ助成2事業、スタートアップ助成2事業、トライ助成2事業

	事業名	申請団体	助成額 (総事業費)
1	【チャレンジ助成 1年目】 区内で活動する「子どもにかかわるボランティア」の育成と活動支援	(特非) ふれあいの家-おばちゃんち (共同代表理事：駒崎 圭子、 清水 美恵)	425,000 円 (864,660 円)
[事業概要<①目的 ②事業内容 ③効果>] ① 子育てする保護者が孤立せず子どもが安心して育つ環境を実現するために、地域で子育て世帯を支えるボランティアの担い手を増やす。 ② 子どもにかかわるボランティア活動を行うにあたっての基礎的な講座に加え、地域の子育てネットワークと連携し、実践の場を提供するなど継続的な伴走支援も行う。 ③ ボランティアに関心のある人が活動を始めやすい仕組みを作ることで、地域や子どもに関わる人材を増やす。			
2	【チャレンジ助成 2年目】 ペット同行避難体験・人とペットの防災展示体験イベントによる防災意識向上	しにゃねこっ。の会 (代表：西田 里佳)	352,000 円 (761,837 円)
[事業概要<①目的 ②事業内容 ③効果>] ① 災害時に人とペットと一緒に避難できるようペット飼育者の防災意識を高め、日ごろから災害に備えることを促す機会とする。 ② 人とペットの防災基礎を学ぶ災害対策セミナー、実物の備蓄品や持ち出し品などの防災体験展示、ペット同行での避難体験を実施する。 ③ ペット飼育者の災害への備えや防災意識の向上に寄与する。			
3	【スタートアップ助成 2年目】 やしお森っこ／未就園児親子の森の居場所事業	やしおぼーず (代表：宮里 耕太)	300,000 円 (400,968 円)
[事業概要<①目的 ②事業内容 ③効果>] ① 八潮住民に関わってもらい活動を充実させ、子育て世帯を中心とした多世代交流を促進する。 ② 未就園児の親子を対象に、月2回緑豊かな八潮で緑道周辺の散策や自然遊びと、親向けに手仕事(ものづくり体験)を行う。 ③ 子どもを中心とした新たなコミュニティの形成により、多世代交流の機会創出やまちづくり人材発掘の機会となる。			
4	【スタートアップ助成 3年目】 みんなはどうしているの?～膠原病の交流会	(特非) 膠原病・リウマチ・ 血管炎サポートネットワーク (代表理事：大河内 範子)	300,000 円 (651,952 円)
[事業概要<①目的 ②事業内容 ③効果>] ① 膠原病関連疾患は希少疾患のため、他の患者と出会う機会が少なく孤独感を持ちながら生活している。患者同士やその家族が安心して交流できる場を提供する。 ② 患者同士で体験を語り合い、客観的でより正しい情報を得られる交流会を年3回行う。 ③ 患者や家族の孤独感や不安感を軽減させ、症状のコントロールを高める機会となる。			

5	【トライ助成 1年目】 テーマ：困難や生きづらさを抱える人たちが地域で支えるコミュニティづくり エンタメを活用した交流の場づくり事業	(一社)エムむすび (代表理事：徳村 幸子)	1,940,000 円 (2,136,685 円)
[事業概要<①目的 ②事業内容 ③効果>] ① 様々な理由で孤立を感じている方を中心に交流できる場の運営により、地域との接点を生み出し、必要に応じて適切な支援にもつなげる機会を創出する。 ② エンタメを活用した交流の場として、誰でも気軽に立ち寄れる月2回のラウンジ運営、月1回の講座、年1回のイベントを実施する。 ③ 地域との接点が生まれることで様々な理由から孤立を感じる人が減少し、地域とのつながりを持つ住民が増え、多様な地域コミュニティの創出につながる。			
6	【トライ助成 2年目】 テーマ：地域団体への ICT 支援に関する取り組み 地域団体デジタルサポーター育成事業	(一社)モノづくり X プログラミング for Shinagawa (代表理事：杉本 将輝)	2,402,000 円 (4,644,920 円)
[事業概要<①目的 ②事業内容 ③効果>] ① デジタル活用が積極的に推進される一方で、スキルやノウハウを持つ・持たないの情報格差が課題となっている。区のデジタルリテラシー向上をめざす。 ② 地域のデジタル支援に関心のある住民を「デジタルサポーター」として育成し、デジタル機器活用に不慣れな地域団体のデジタル支援の仕組み作りを行う。 ③ デジタルサポーターのスキルが向上し、地域団体が抱えるデジタル課題の解消に寄与する。			
合計			5,719,000 円 (9,461,022 円)

8. 審査後スケジュール

- (1) 助成金交付 令和7年7月末
(2) 成果報告会 令和8年2月13日（金）きゅりあん大会議室